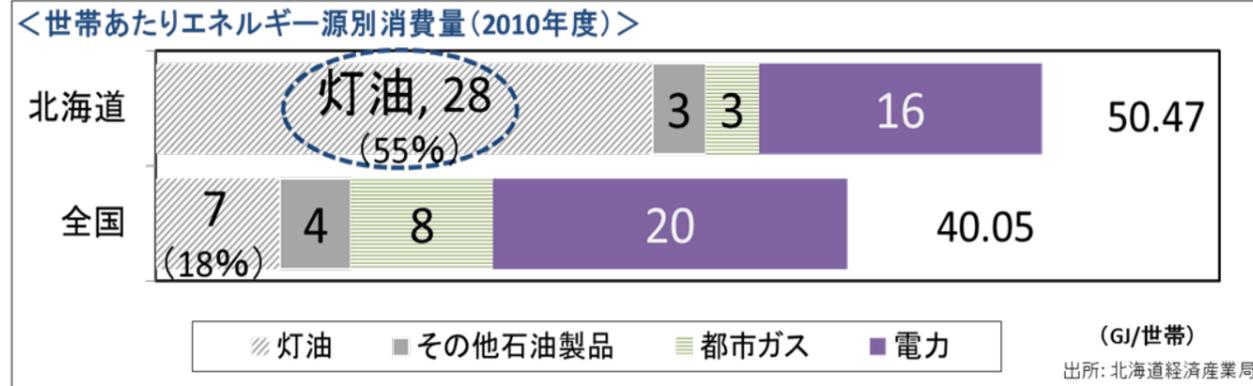


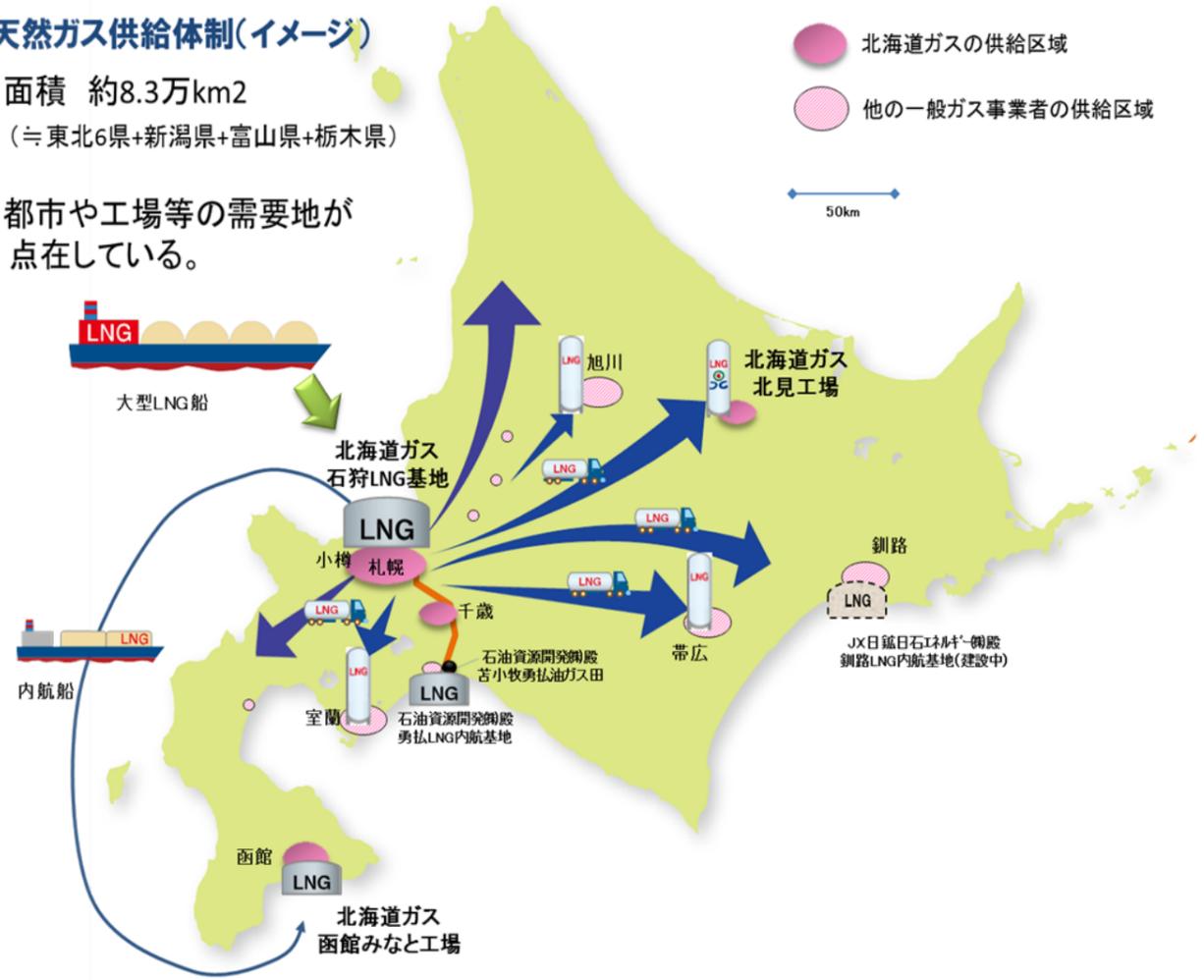
## 北海道の主な特徴

### ■エネルギー消費：エネルギー消費が多く、世帯あたりに占める灯油の割合が高い。



### ■天然ガス供給体制(イメージ)

- ・面積 約8.3万km<sup>2</sup>  
(≒東北6県+新潟県+富山県+栃木県)
- ・都市や工場等の需要地が点在している。



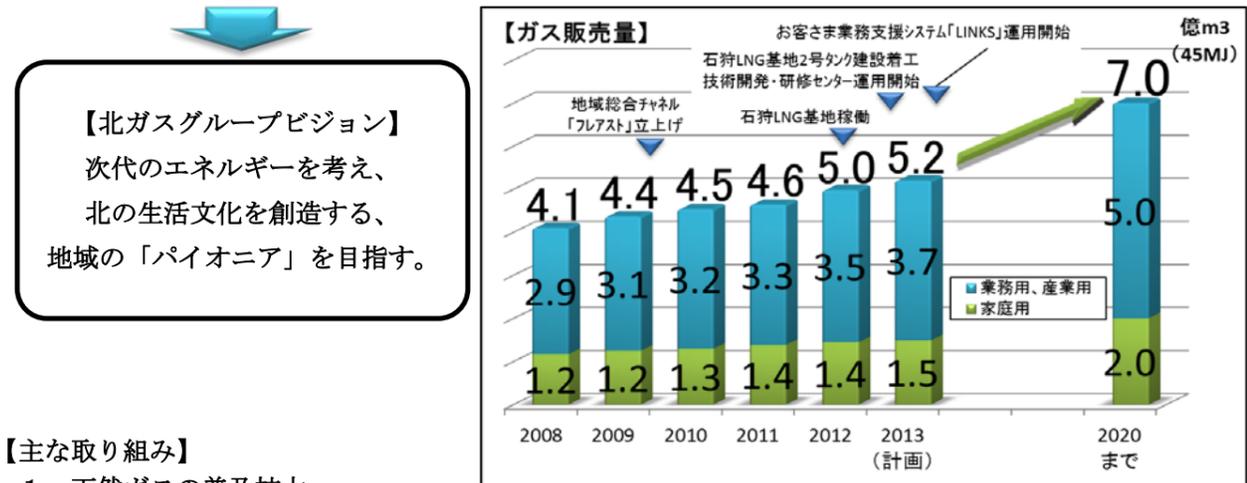
### ■屋内設置型のガス機器が主流

## 北海道ガス(株)のこれまでの取組みと、今後の事業展開について

### I. これまでの取組み

【Progress2020 「2020年度までに目指す姿」：2008年策定】

- ◆「安全・安心・安定供給」をベースとした地域に根付いた都市ガス事業を中心とする「総合エネルギーサービスグループ」を目指す
- ◆天然ガス文化を北海道で浸透・定着させ、2020年度までに年間ガス販売量7億m<sup>3</sup>を目指す  
(家庭用2億m<sup>3</sup>、業務用・産業用5億m<sup>3</sup>)



### 【主な取り組み】

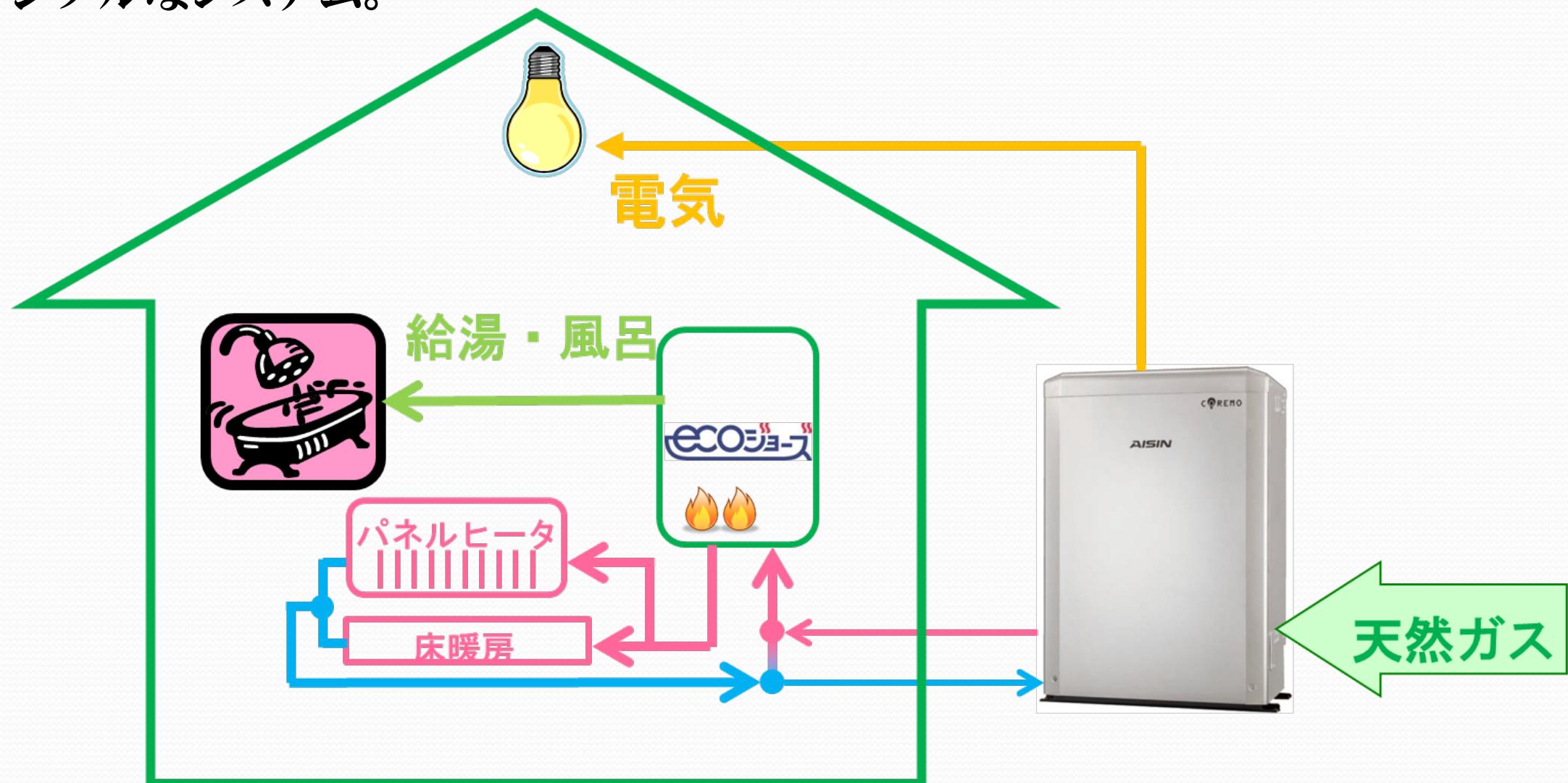
1. 天然ガスの普及拡大
  - 積極的な営業活動
    - ・寒冷地向け商品開発、その他の省エネ型機器の普及拡大、省エネ提案等による燃料転換営業 等
    - ★ガスマイホーム発電「コレモ」：エコジョーズとセットで利用。主に暖房期に稼働し、発生する熱を暖房に最大限活用
    - ・LNG サテライト供給（道内に点在する需要にも天然ガスを普及拡大）
  - 営業活動を支援する基盤整備
    - ・地域総合チャネル「フレアスト」の展開（2010年1月立上、2013年7月全地区9店）
    - ・お客さま業務支援システム「LINKS」の運用開始（2013年9月）
2. 天然ガス供給基盤の確立
  - 石狩LNG基地の稼働（2012年11月運転開始。道内初のLNG一次受入基地）
    - ・道内一円への長期的、かつ安定的なLNG供給体制（内航船・ローリー出荷設備併設）
    - ・工期1年短縮、リーススキームの活用
    - ・北海道電力(株)との基地共同利用に向けた協議を進行中
3. 安全高度化の推進
  - 経年管対策、安全型機器への買替促進
  - 「技術開発・研修センター」の運用開始（2013年4月）

### II. 今後の事業展開の考え方

- これまでの取組みを進化させる中で、安心、安全を大前提に、地域のお客さまニーズを捉え、天然ガスや熱、また将来的には電気も含めたトータルのエネルギー供給と、関連するサービスをセットでお客さまに提供する「総合エネルギーサービス事業」を展開し、地域とともに成長する企業グループを目指す。

# ガスマイホーム発電「コレモ」

- エネファームと並ぶ家庭用分散型発電システムで、アイシン精機(株)殿とともに商品の開発に取り組んだ。
- 北海道の暖房エネルギー使用が、全国平均の約3倍である点に着目。
- エコジョーズとセットで使用。貯湯タンクがなく省スペース。
- 暖房運転時にガスエンジンが自動的に稼働・発電し、排熱を暖房に即座に利用するシンプルなシステム。



# 石狩LNG基地の概要

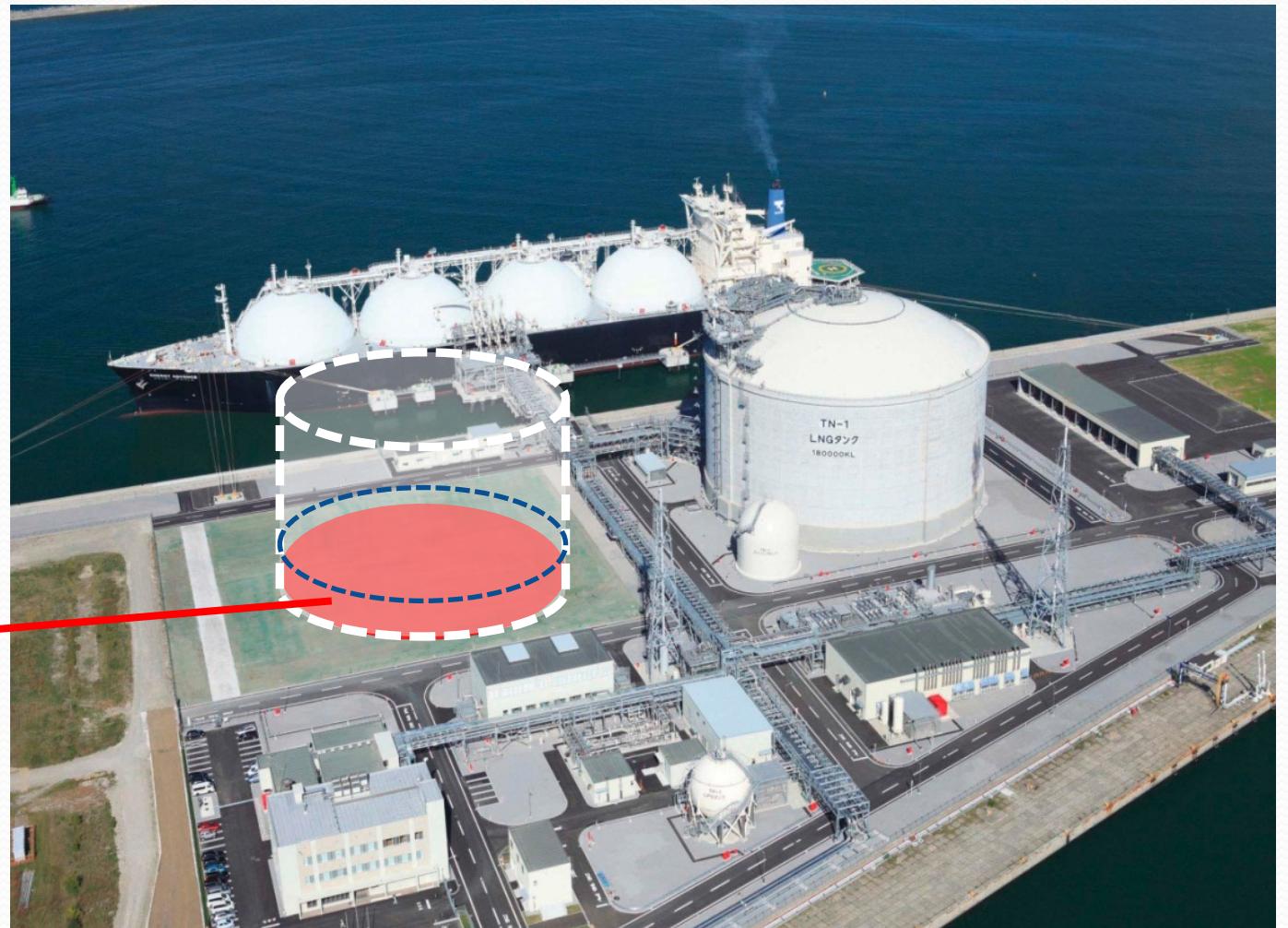
- 運転開始 : 2012年11月30日
- LNGタンク : 容量 18万kl
- LNG外航船バース : 全長300m級の船に対応可能
- LNGローリー出荷設備(10レーン)、内航船出荷設備 併設

## LNG2号タンクの概要(建設中)

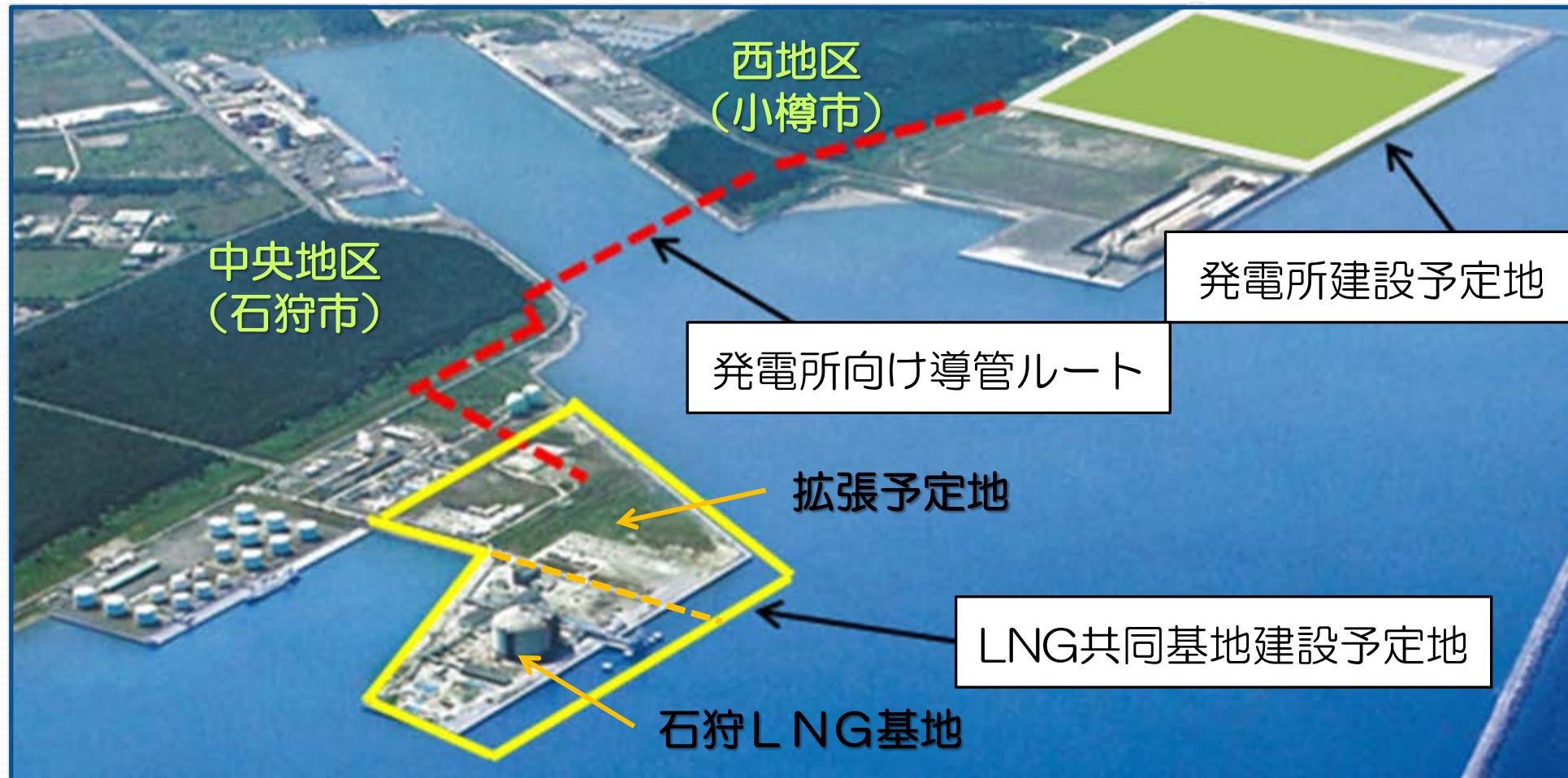
- 容量 : 20万kl
- 運用開始 : 2016年9月(予定)



※2013年10月30日撮影



# 石狩LNG基地と北電火力発電所について



石狩LNG基地を拡張して北海道電力火力発電所向け  
LNGタンク等を設置予定(2018年度運転開始予定)

# 技術開発・研修センターの運用を開始

## エネルギー環境技術の発信拠点

天然ガスと再生可能エネルギーを融合させた新たな環境負荷低減手法の開発と地域への情報発信

## 低炭素社会実現に向けた技術開発

通年でマイナス25℃を再現できる「環境試験室」等を設置し、より効率的な寒冷地技術開発の実施

## 安全安心を支える人材育成

街並みなど、現場をよりリアルに再現した「緊急保安総合研修室」を設置し、実践的な訓練でガスのプロフェッショナルを育成



緊急保安総合研修室



環境試験室



緊急保安総合研修室